

# 令和2年度 公益財団法人滋賀県陶芸の森事業報告

## ◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指している。

令和2年度においては、県および甲賀市からの指定管理第3期（5年間）の最終年度として、引き続き施設の適切な運営管理に努めるとともに、次期指定管理者の指定獲得に向けて取り組んだ結果、当財団が指定されることとなった。

併せて、陶芸の森開設30年目となる節目として、様々な記念事業を計画していたが、年度当初より新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、閉館や事業の中止・延期を余儀なくされるとともに、実施事業にあっても、規模や実施方法を見直さざるを得ない状況となった。こうした状況を踏まえ、展覧会や屋外展示作品の3D撮影によるバーチャルミュージアムの開設や、Web会議方式による「薪窯を語る会」の実施など、Withコロナ時代の生活様式に対応した新たな取り組みについても試みたところである。

また、信楽窯業技術試験場の令和4年度の隣接移転を見据え、試験場と連携を深める検討会を立ち上げ、両者の強みを活かした陶器産業の振興支援策などを進めることとした。

なお、陶芸の森入園者数は、上述のとおり新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前年度を約11万人下回る339,892人であった。

## 第1 県民に親しまれる施設運営に関する事業

### 1. 公園機能の充実

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園機能の充実を図り、来園者に快適な空間の提供とサービスの向上に努めた。

#### (1) 陶芸作品の野外展示

陶芸の森の名に相応しく、滞在した陶芸家の創作作品を野外設置し、オープン・エア・ミュージアムとして、自然の中で広く芸術作品を鑑賞できる機会を提供した。

#### (2) 窯の広場

穴窯を始め薪窯7基により、つくり手である陶芸家のニーズに応え、活動意欲の向上に繋げるとともに、来園者には活きた薪窯を見ていただき、園内散策のポイントとした。また、新たな薪窯として「トレインキルン」1基を築窯した。

#### (3) 花咲く公園

「火鉢ロード」と命名した歩道沿いに、昭和時代に信楽焼の主力製品であった各種火鉢を設置し、来園者にレトロな雰囲気味わっていただくとともに、様々な花木や草花を適切に管理し、四季折々の姿を楽しんでいただいた。

#### (4) ボランティア活動推進事業

来園者に対するサービス向上と陶芸文化の普及活動のため、連携授業補助、園内の案内およびPR活動、園内園芸作業など、ボランティアによる活動支援を受けた。

・令和2年度登録ボランティア数 34人 延べ活動人数 11人

### 2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

やきものファンに信楽をより知ってもらうために、陶芸体験講座として「しがらき学ノススメ」や一般参加型のイベントを開催した。

## (1) しがらき体験 しがらき学ノススメ！

### ア. 実技講座シリーズ

#### ①手びねりでうつわをつくろう！

※新型コロナウイルス感染症流行のため取りやめ

#### ②ミニ窯をつくる

手びねりでぐい呑み数個が焼けるミニ窯をつくり、焼成体験とともに、窯の仕組みについて理解を深めた。

＜開催日＞ 令和2年12月5日(土) ＜参加者＞ 11人

#### ③ラク焼講座

※新型コロナウイルス感染症流行のため取りやめ

#### ④ラク焼上級講座

粘土3kgで茶碗を制作し、ラク焼の焼成技術の習得を促した。

＜開催日＞ 令和3年3月21日(日) ＜参加者＞ 17人

#### ⑤練り込み技法でうつわをつくろう！

＜開催日＞ 令和3年2月28日(日) ＜参加者＞ 13人

#### ⑥野焼き講座

粘土5kgで壺などを制作し、磨きや野焼きの工程を通じて、野焼きの面白さを探った。

＜開催日＞ 成形：令和3年3月7日(日)、磨き：13日(土)、野焼き：20日(土)

＜参加者＞ 各15人

### イ. 穴窯体験講座

信楽町内在住の陶芸家による指導のもと実際に作品をつくり、穴窯で焼成をする体験を通じて、知識と技術の普及を図った。

・初級 ＜開催日＞ 令和2年10月18日(日) ＜参加者＞ 13人

＜開催日＞ 令和2年11月29日(日) ＜参加者＞ 12人

・中級 ＜開催日＞ 令和2年11月1日(日) ＜参加者＞ 13人

・上級 ＜開催日＞ 令和2年11月21日(土)・22日(日) ＜参加者＞ 11人

・焼成 ＜実施日＞ 令和2年12月9日(水)～13日(日)、窯出し20日(日)

### ウ. 穴窯焼成クラス

穴窯体験講座のリピーター等の経験者を対象に、薪による焼成技術の習得を目指した。

・説明会 ＜開催日＞ 令和2年9月12日(土)

・焼成 ＜開催日＞ 令和3年3月17日(水)～21日(日) ＜参加者＞ 14人

### エ. 登り窯講座

信楽町内在住の陶芸家による指導のもと実際に作品をつくり、登り窯(火袋、一の間)で焼成する体験を通じて、登り窯の知識と技術の普及を図った。

・初級 ＜開催日＞ 令和2年9月6日(日) ＜参加者＞ 14人

・中級 ＜開催日＞ 令和2年10月4日(日) ＜参加者＞ 5人

・上級 ＜開催日＞ 令和2年9月12日(土)・13日(日) ＜参加者＞ 6人

・焼成 ＜開催日＞ 令和2年11月17日(火)～22日(日) ＜参加者＞ 4組

### カ. トレインキルン築窯講座(陶芸の森30周年記念事業)

短時間での焼成が可能であり、アメリカではポピュラーな窯であるトレインキルンを体験した陶芸作家の指導のもと、講座形式により参加者とともに築窯制作した。

＜開催日＞ 令和2年11月7日(土)・8日(日) ＜参加者＞ 14人

キ. 「京都造形芸術大学通信学部 陶芸スクーリング in 信楽」事業

※新型コロナウイルス感染症予防のためスクーリング自体が中止となったため、学生各自が制作した作品を陶芸の森に搬入し、穴窯で焼成した。

(2) イベントの開催・誘致

ア. 第14回信楽作家市 in 陶芸の森の誘致

※新型コロナウイルス感染症流行のため主催者判断で中止

イ. 第25回信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森の開催

「作品に触れ作家に触れる」をテーマに、県内の陶芸家を中心とする工芸家が自らつくった作品を販売する場を、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に取った上で提供した。

<開催日> 令和2年9月20日(日)～22日(火・祝)

<参加者> 30,238人(前年度18,246人、対前年度166%)

・陶芸家等出展: 128ブース(出展者: 約140人)

・飲食関係出店: 13ブース(8店舗)

ウ. 野外音楽イベント「SIVEL WARS」の誘致

※新型コロナウイルス感染症流行のため主催者判断で中止

エ. 第2回しがらき森のクラフトフェスタの誘致

※新型コロナウイルス感染症流行のため主催者判断で中止

オ. わくわくウォーキング in 陶芸の森の開催

※新型コロナウイルス感染症流行のため中止

カ. 信楽インスタグラムキャンペーン「スカーレットのレガシーを記憶に」の実施

NHK朝の連続テレビ小説スカーレットの舞台となった自然豊かな信楽町を素材とした、「インスタ映え」する写真を一般募集した。

<募集期間> 令和2年5月1日(金)～令和3年1月31日(日)

<投稿数> 154件

(3) 観光および集客促進のための広報活動

新聞広告等の有料媒体を始め、WEBを中心とした無料媒体への情報提供や、パブリシティ、ホームページの充実を通じて積極的な情報発信を行った。

【主な掲載・放送実績】

- ・TVラジオ 15件 『おうみ発630』(NHK)、『NHKBSプレミアム』他
- ・新聞 20件 『京都新聞』、『中日新聞』、『産経新聞』、『読売新聞』他
- ・雑誌 25件 『月刊GALLERY7』((株)ギャラリーステーション)  
『なごみ 10月号』((株)淡交社)  
『東海ウォーカー』((株)KADKKAWA)  
『じゃらん8月号』((株)リクルート)  
『ことりっぷマガジン秋号』((株)昭文社)  
『Leaf』((株)リーフ・パブリケーションズ)  
『公募ガイド』((株)公募ガイド社)、『和楽』((株)小学館)

(4) 地域拠点活用事業

まちなかギャラリーF U J I K I (旧陶喜陶苑)の運営を「F U J I K I 運営委員会」に委託し、地域に根差した施設運営の実施に努めた。

- ・販売会「甲賀市地酒と信楽焼 酒器と食器」

<開催日> 令和2年9月20日(日)～22日(火)

<内 容> 信楽焼器での食事提供、甲賀市の地酒と信楽焼食器・酒器の展示販売

#### (5) 信楽産業展示館多目的ホールの活用【収益事業】

県民の陶芸に対する理解と親しみを深めてもらい、陶芸に関する交流の場とするため、信楽ホールの活用を図った。

### 3. 施設の管理

地域の産業、文化および観光の拠点施設としての機能と、来園者にやすらぎを感じてもらえる施設として良好な状態を維持し、適切な維持管理に努めた。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、県および甲賀市との協議により、下記のとおり休園および休館措置を取った。

- ・産業展示館のみ休館：4月7日～4月10日（陶芸館開館・公園施設開園）
- ・公園施設のみ開園：4月11日～4月22日（陶芸館・産業展示館休館）
- ・全施設休園：4月23日～5月15日
- ・公園施設のみ開園：5月16日～6月1日（陶芸館・産業展示館休館）
- ・全施設開園：6月2日～

### 4. 陶芸の森やきもの振興基金の周知活動

一層の事業展開が図れるよう、「陶芸の森やきもの振興基金」への寄付について、各種事業の実施時やホームページなどを通じて周知した。

## 第2 陶芸文化の発信事業

### 1. 展覧会開催事業

#### (1) 陶芸の森開設30周年記念 特別展「リサ・ラーソンー創作と出会いをめぐる旅」

<開催期間> 令和2年4月1日(水)～6月28日(日) 《令和元年度から継続》

※4月11日(土)～5月31日(日)：

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館

<観 覧 者> 9,414人 (33日間/1日平均285人)

リサ・ラーソンは、北欧の陶芸デザインにおいて魅力的な動物作品やテーブルウェアで世界的に知られる陶芸家。開催二度目の本展は、新型コロナウイルスの影響で休館や会期短縮を余儀なくされたが、連日多くのファンが来館し好評を博した。

#### 【関連事業】

- ・ラッピング列車の運行（信楽高原鐵道：信楽駅～貴生川駅）

<期間> 令和2年4月1日(水)～6月28日(日) 《令和元年度から継続》

- ・信楽高原鐵道フリーパス&展覧会観覧券共通チケット <販売実績> 484人
- ・「リサ・ラーソン」展 紹介YouTube 配信 <視聴回数> 2,667回
- ・「リサ・ラーソン」展バーチャルミュージアム開設

滋賀県初の取組として、一般社団法人VR革新機構の協力を得て「リサ・ラーソン」展を3D撮影し、VR（仮想現実）映像をホームページで公開した。

<公開期間> 令和2年6月22日～12月31日 <鑑賞件数> 2,697件

#### (2) 陶芸の森開設30周年記念

特別企画「湖国・滋賀の陶芸ー風土と伝統そして交流の中で」展

<開催期間> 令和2年7月18日(土)～9月22日(火・祝)

<観覧者> 6,496人(58日間/1日平均112人)

琵琶湖を抱く滋賀の大地は、良質の陶土を育み、豊かなやきもの文化をつくりだしてきた。そうした風土や伝統に魅せられ、信楽をはじめ各地で幅広い作家が活動している。本展では、彼らの作品とおして現代の多彩な陶芸と滋賀の魅力に迫った。

【関連事業】

・ギャラリートーク ※新型コロナウイルス感染症流行のため中止

(3) 陶芸の森開設30周年記念 特別展「奇跡の土ー信楽焼をめぐる三つの景色」

<開催期間> 令和2年10月3日(土)～12月13日(日)

<観覧者> 8,464人(62日間/1日平均137人)

信楽焼は土に特徴があり、独特の窯変が得られる陶土は、他に類をみない「奇跡の土」と呼ばれている。本展では、土に焦点をあて「日本六古窯と信楽焼の景色」、「信楽焼とアメリカ陶芸」、「信楽・焼締めは今」の三つの視点で信楽焼を紹介した。

【関連事業】

・ギャラリー・トーク

<開催日> 令和2年10月25日(日) <参加者> 30人

・多賀町立博物館学芸員(地質学)によるシャッフルギャラリー・トーク

<開催日> 令和2年11月25日(日) <参加者> 16人

(4) 特別展「神業ニッポン 明治のやきものー幻の横浜焼・東京焼」

<開催期間> 令和3年3月20日(土)～31日(水) 《令和3年度へ継続》

<観覧者> 764人(10日間/1日平均76人)

開国を契機に、優美かつ類稀なる意匠を凝らした海外向けの「横浜焼・東京焼」。本展では、国内随一のコレクターである田邊哲人氏所蔵の里帰り作品を中心に、日本に現存する明治の優品約140点を紹介し、超絶技巧の「職人技」の魅力に迫った。

(5) 収藏品収集・管理事業

県の収藏品収集方針に基づき質の高い収藏品収集に努め、令和2年度は収藏品収集審査会や価格評価委員会での審議を経て、購入作品5点、寄付作品13点を収集した。

(6) 陶芸館ギャラリー企画展

ア. 信楽焼魅力発見・発信企画「Shigaraki×Photography」展

「巧妙に炎を操る神山清子 土と炎がつくる景～信楽の薪窯に挑んだ女流作家」

<開催期間> 令和2年4月1日(水)～6月28日(日) 《令和元年度から継続》

※4月11日(土)～5月31日(日) :

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館

<入館者> 13,386人

イ. 子どもたちの土の造形2020年展

<開催期間> 令和2年7月18日(土)～8月30日(日) <入館者> 6,886人

ウ. 陶芸館・新収蔵の逸品展

<開催期間> 令和2年9月5日(土)～12月13日(日) <入館者> 20,315人

エ. 粘土でフロッタージュまちを写し取ろう！展

<開催期間> 令和3年3月20日(土)～28日(日) <入館者> 1,239人

(7) 博物館実習

<実施期間> 令和2年8月18日(火)～21日(金)

<実習者> 2名(仏教大学・京都外国語大学各1人)

## 2. 創作事業(アーティスト・イン・レジデンス事業[AIR事業])

国内外からのスタジオ・アーティストの受入や、ゲスト・アーティストの招へい等を行うことによって、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させた。なお、4月から6月に掛けては、新型コロナウイルス感染症流行のため、前年度に滞在していた作家を継続して受入れる形で運営を行った。また、6月から日本国内に在住する者の受入れを実施した。

### (1) スタジオ・アーティストの受入れ 25人(延べ29回)

日本-19人(23回)、イギリス-1人、台湾-2人、アメリカ-1人、フランス-1人、中国-1人

### (2) ゲスト・アーティストの招聘(文化庁補助事業枠含む) 4人(国内4人)

#### ① 小出 ナオキ(千葉県)

<滞在期間> 令和2年6月21日～6月30日、7月17日～8月25日  
9月22日～11月30日、12月10日～22日(滞在日数133日)

【ワークショップ】 「小出さんと粘土で遊ぼうー窯の神様をつくろうー」

〔制作〕 令和2年8月22日 〔焼成〕 令和2年11月22日

〔参加者〕 13人

#### ② 榎本 佳子(甲賀市)

<滞在期間> 令和2年6月2日～令和3年3月31日(滞在日数303日)  
〔次年度へ継続〕

#### ③ 日野田 崇(京都府)

<滞在期間> 令和2年7月5日～令和3年3月31日(滞在日数330日)  
〔次年度へ継続〕

#### ④ 松井 紫朗(京都府)

<滞在期間> 令和2年4月3日、10日、17日(滞在日数3日)  
〔前年度より継続〕

### (3) 創作研修館オープン・スタジオ、ワークショップ、講演会等

滞在アーティストによる展覧会活動等 9人 延べ18件(国内・アメリカ)

### (4) 陶芸館ギャラリー、創作研修館ギャラリー等を基点とした情報発信・活性化

創作研修館ギャラリーでは、滞在アーティストの滞在成果展示を開催した(1回)。

また、アーティスト・イン・レジデンス事業のインスタグラムアカウントを開設し、制作場所としての陶芸の森の魅力を伝え、滞在作家の活動のアーカイブ化と、将来的に滞在を考えているアーティストへの情報公開に努めた。

### (5) 国内外の機関との連携

#### ア. 海外の機関との連携

○海外のアーティスト・イン・レジデンス機関との交換プログラム(文化庁補助事業)により、2機関から陶芸家を受け入れた。

・台南芸術大学: ケイト・ストラカン(令和2年11月1日～令和3年2月7日)

・中国美術学院: チン・イテン(令和3年2月10日～3月25日)

○連携先である香港バプティスト大学および台湾文化センターからのレジデンス・アーティスト受入れについては、新型コロナウイルス感染症流行のため次年度に延期した。

#### イ. 国内の機関との連携

文化庁補助事業としてアーティスト・イン・レジデンス研究会を開催した。

<開催日> 令和3年3月6日(土)・7日(日)

<開催場所> 滋賀県立陶芸の森

<参加者> 3機関、延べ35人

### 3. 滋賀県立陶芸の森 30周年記念事業

#### (1) 薪窯の魅力を語る会の開催

信楽焼の古琵琶湖層群についての報告や、日本六古窯の代表的な陶芸家、アメリカ陶芸の薪窯を紹介するスピーカー等を交えて、Zoomを活用したWeb会議方式によって薪窯の魅力を伝え、改めて薪窯を考える機会とした。

ア. 「薪窯の魅力を語る会」ライブ配信

<開催日> 令和2年10月24日(土) <開催場所> 滋賀県立陶芸の森

<参加者> 30人

イ. 「薪窯の魅力を語る会」実施状況録画放映

<開催日> 令和2年10月25日(日) <開催場所> 滋賀県立陶芸の森

<参加者> 52人

#### (2) 薪窯ワークショップ

陶芸作家による公開制作と併せて、作家指導の下、参加者が壺や花器などの作品を制作し、制作技法や焼き締め陶器の産地による制作方法の違いを学んだ。

<開催日> 令和2年10月23日(金) <参加者> 制作：11人、見学：20人

#### (3) 登り窯焼成記録ダイジェスト版 YouTube 配信

<視聴回数> 626回

### 4. 「つちっこプログラム」／子どもやきもの交流事業

新型コロナウイルス感染症防止のため、下記の対策を講じて実施した。

- ・児童生徒間で水入れや筆等の道具を共用させない。
- ・デモンストレーションは小人数単位で実施する。等

#### (1) 「本物と出会うー総合的学習プログラム事業」と宝物事業との連携

- ・連携授業 101件 5,699人
- ・来園見学 11件 688人
- ・研修会 1件 20人
- ・ねんどと遊ぶ 2件 81人

○世界にひとつの宝物づくり事業「世界にひとつの宝物づくり実行委員会」

<参加者> 81回 2,337人

#### (2) 連携事業および世界にひとつの宝物づくり事業の成果展開催

「子どもたちの土の造形 2020年展」(陶芸館ギャラリー企画展再掲)

<開催期間> 令和2年7月18日(土)～8月30日(日) <観覧者> 6,886人

### 第3 産業の振興に関する事業

#### 1. 人材育成事業

##### (1) 信楽高等学校への支援事業

人材育成事業として、昨年同様信楽高等学校の支援を信楽高等学校地域協議会等の地域団体と連携して行い、地域での人材育成に努めた。

ア. デザイン科外部研修受け入れ（絵付け実習）

＜実施日＞ 令和2年11月25日(水) ＜参加者＞ デザイン系列3年28人

イ. 野焼き体験実習

＜実施日＞ 令和2年11月6日(金) ＜参加者＞ セラミック系列2年29人

ウ. 陶芸の森施設見学

＜実施日＞ 令和2年10月27日(火) ＜参加者＞ 1年生70人

エ. 作家指導によるやきもの制作

＜実施日＞ 令和2年10月16日(金) ＜参加者＞ セラミック系列2年28人

オ. 登り窯焼成実習

＜実施日＞ 令和2年11月20日(金) ＜参加者＞ セラミック系列2年29人

#### 2. 「がちゃがちゃ デザインコンペ」

ミュージアムショップの「がちゃがちゃ」（カプセルトイ）で販売することを目的に作品公募を行った。

＜募集期間＞ 令和2年7月28日(火)～12月27日(日) ＜応募総数＞ 73点

＜審査日＞ 令和3年2月17日(木) ＜受賞＞ 金・銀・銅賞 各1点

（参考）前年度デザインコンペ入賞作品販売個数 219個

#### 3. 信楽窯業技術試験場との連携強化

##### (1) ワーキンググループ会議の開催

信楽窯業技術試験場の隣接移転を見据え、9月にワーキンググループ会議を立ち上げ、月1回の定期会議で、双方の特性を活かした陶器産業の振興支援策等を協議した。

##### (2) デジタルアーカイブ事業

収蔵品の将来的なデジタルアーカイブ化に向け、試験場の協力を得て、所有の3D撮影機材を活用し、古信楽「蹲壺」1件の3Dデータ撮影と素材制作を行った。

### 第4 企画事業

#### 1. ミュージアムショップの運営

- ・特別企画「リサ・ラーソン」展（会期33日間）

売上合計 20,637,967円（625,393円/日）

- ・特別企画「湖国・滋賀の陶芸」展（会期58日間）

売上合計 844,760円（14,565円/日）

- ・特別企画「奇跡の土ー信楽焼をめぐる三つの景色」展（会期62日間）

売上合計 1,335,805円（21,545円/日）

- ・特別展「神業ニッポン 明治のやきものー幻の横浜焼・東京焼」（会期10日間）

売上合計 222,6255円（22,263円/日）

※売上額はクレジットカード等使用手数料支払い前の金額